



2019年2月12日

本社所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目23番5号  
 上場会社名 株式会社サニーサイドアップ  
 代表者 代表取締役社長 次原悦子  
 (コード番号: 2180)  
 問合せ先 執行役員 グループ管理本部本部長 相田 俊充  
 電話番号 03-6894-3233

## 2019年6月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2018年11月12日公表の2019年6月期第2四半期連結累計期間（2018年7月1日～2018年12月31日）の業績予想値と本日公表の実績値において差異が生じたので、下記の通りにお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2019年6月期第2四半期連結累計期間業績予想との差異（2018年7月1日～2018年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	百万円 7,670	百万円 240	百万円 239	百万円 148	円 銭 20.09
実績値 (B)	7,408	477	568	413	56.02
増減額 (B-A)	▲262	237	329	265	—
増減率	▲3.4%	98.8%	137.7%	179.1%	—
(参考)前期実績	6,849	155	154	48	6.54

#### 2. 予想値と実績値の差異の理由

##### （売上高）

当社グループの基幹事業であるマーケティング・コミュニケーション事業およびスポーツ事業が当初の計画を上回り推移したものの、bills事業において、国内既存店の売上高が夏場の天候不良の影響を受けたこと、2018年9月にオープンした韓国3号店の本格稼働が予定より遅れたこと等により、売上高は前回公表の7,670百万円から3.4%減の7,408百万円となりました。

##### （営業利益）

マーケティング・コミュニケーション事業において、安定収益を生み出すリテナー案件の比率増加に伴い、相対的に収益性が向上したことに加え、業務効率化およびマネジメント体制の強化により、セグメント利益率が向上しました。

スポーツ事業では、新規案件獲得による売上高増加に加え、マーケティング・コミュニケーション事業と同様に業務効率化に

取り組んだことでセグメント利益率が向上しました。

その他、全社費用の削減効果により、営業利益は前回公表の 240 百万円を大幅に上回る 477 百万円となりました。

(経常利益)

上記の営業利益の増加に加え、当社の連結子会社である SUNNY SIDE UP KOREA, INC.において、当初計画では見込んでいなかった匿名組合の持分譲受に伴う営業外収益 105 百万円を計上したことにより、経常利益は前回公表の 239 百万円を大幅に上回る 568 百万円となりました。

(親会社株主に帰属する四半期純利益)

上記の経常利益における予想値との差異の発生に伴い、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回公表の 148 百万円を大幅に上回る 413 百万円となりました。

### 3. 通期連結業績予想を修正しない理由

基幹事業であるマーケティング・コミュニケーション事業およびスポーツ事業の事業進捗により、第 2 四半期連結累計期間において、利益ベースでは当初の計画を大幅に上回る結果となりました。

その一方、S P・M D 事業においては、当初の計画通りに収益性が改善しており、セグメント利益を計上しましたが、引き続き安定的な収益モデルを再構築している最中であり、当該セグメントの通期の業績見込みについては現在精査している状況です。

その他、bills 事業においては、2018 年 9 月にオープンした「bills 江南（カンナム）」の集客動向を確認している最中であることに加え、「bills 蚕室（チャムシル）」が入居している商業施設の設備故障により、店舗の運営が 2019 年 1 月から 5 月頃まで臨時休業する見込みです。

上記記載の下期業績における不確定要因等を勘案し、通期連結業績予想については変更いたしません。通期の業績の見通しが分かり次第、必要に応じて開示する予定です。

※本資料に記載されている業績見通し等の記述は、当社が現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって当該予想と異なる場合がありますので、予めご了承ください。

以上

(本件に関するお問合せ先)

株式会社サニーサイドアップ グループ管理本部 経営企画部 TEL 03-6894-2241